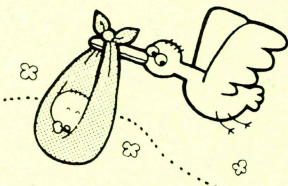
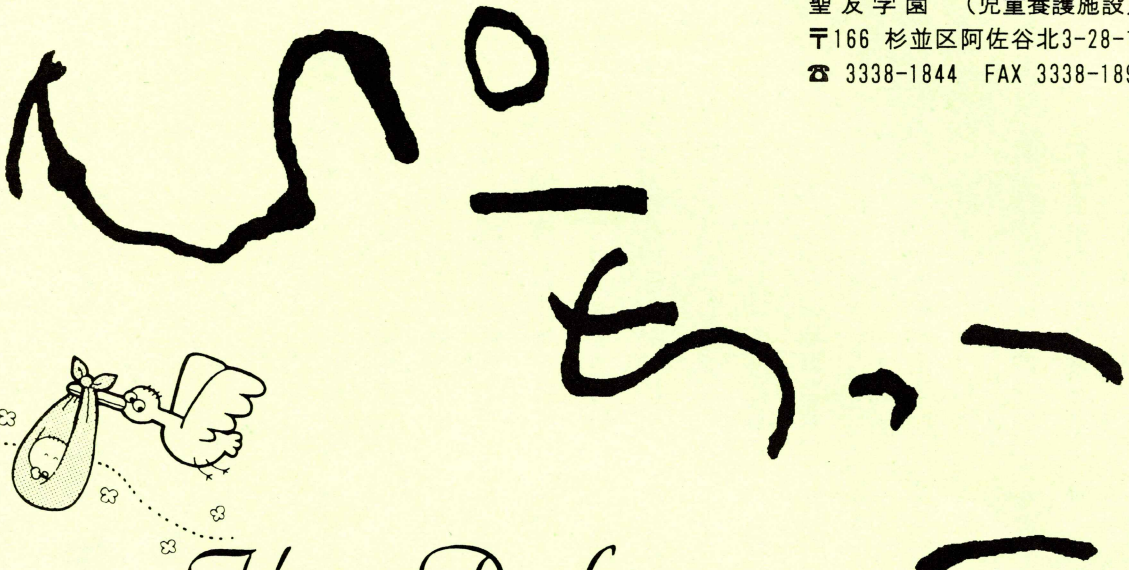


発行 社会福祉法人 聖友ホーム
 聖友学園 (児童養護施設)
 〒166 杉並区阿佐谷北3-28-19
 ☎ 3338-1844 FAX 3338-1894



Happy Birthday

はじめまして よっこちゃん。

おたんじょう日おめでとう

おじさんは よっこちゃんのことを すこーし知
 ってます。

もっともっと知って なかよくなるうね。
 おじさんは48才。会社でたくさん お仕事してい
 ます。スキーが好きで なんでもよく食べ太って
 いる おじさんです。

よっこちゃんは絵が好きな女の子だそうですね。
 おじさんは楽しみにしていますよ。
 いつの日か会えるといいね。

おじさんより。

*本紙6ページをご覧ください。



バースデーフレンドの おじさんへ

おじさんおてがみありがとうございます。
 よっこは、いつも9時にねてま
 す。よっこがいちばんおべんき
 ようですきなのは、さんすうと
 こくごです。
 またおてがみかいてください。
 よっこ

目次	● 「ももくり三年」聖友学園長 梅澤文治	2
	● ふわふわ - 新しいスタートの時	4
	● このゆびとまれ - 「バースデーフレンドのおじさんへ」	6
	● おみせやさん - 中央花壇	7
	● etc	8

ももくり三年

聖友学園長

梅澤 文治

ゴールデンウィークのいち日、久し振りに子どもたちと小金井公園へ遊びに出掛けた。園内は新緑に包まれ、親子の歓声に溢れていた。その公園の一角に江戸東京たてもの園があり、昔を偲ぶ懐しい建物が再現されていた。特に、東京では殆んど見られなくなった茅葺屋根の農家の建物が私に子どもの頃の生活を想い出させてくれた。

出生地（世田谷）は東京と言っても当時は全くの田舎町で、農家と僅かの商家（よろずや）から成り立つ集落であった。付近には清流が見られ、樹木が繁り竹林もあって遊ぶには事欠かない環境であった。木登りトンボ採りなど思い残すことなく跳び回わった。展示の建物は名主の役宅に使われただけあって台所も広く大きかったが、我

が家はトタン屋根で小さかった。台所はやはり土間で、貧弱なかまど（クヘっつい）と言った。二つあったと記憶している。

それでも煮炊きはすべてかまどの世話になっていたし、立ち昇る湯気や釜の蓋をゆすって出来あがったご飯の味が懐しい。今燃料はガスが主流で、ご飯は炊飯器のスイッチを入れるだけで炊き上がるが、当時は殆んど薪が使われた。台所は煙で煤けていたが、これが生活の匂いを感じさせ、家庭の温りを与えてくれたのかも知れない。

また、展示の建物は、襖（からかみ、障子）一枚を仕切りとして部屋が並び、それを取り囲むようにして廊下が廻らせてあった。人寄せがあった時に襖を外せば広間になるので便利なんだと聞いたことがあるが



昭和35年ごろの風景

本当の理由は知らない。現代風に考えればプライバシーはどのように保たれていたのかと思う。しかし、農家では冠婚葬祭は言に及ばず、何かと言うと寄り合うことえだ縁を深めていたのかも知れない。私の子どもの頃も地域との結びつきが深く、似たような環境にあったため子どもは親からだけでなく、地域の人達からも見守られていた。悪いことをすれば遠慮会釈なく叱られたものである。今は近隣との交わりが希薄になってきている。向う三軒両隣りの間で

も顔を知らない人が多く、挨拶を交わすことも少ない。我関せずの生活は気楽と言えどもそれまでの、子育て真最中の若いお母さんや、仕事の関係で東京生活を初めて経験する人にとっては、気安くアドバイスを得られる人が近所にいれば、どんなに心強いかと考えるが思い過しだろうか。

思いつくまゝに半世紀まえの生育環境について振り返ったが、今の生活と比べれば伸びやかなものであった。しかし、「幸せ」はその時代を生きる個人の感じ方によって異なり、子どもの生育環境としての時代が「幸せ」であったと言うことはできないと思う。「ぴーちっこ」は今の時代の中で、児童の養育等にかかわる人々が、あらゆる分野で知識と経験を提供し合い、共有することができるといえる機会が得られれば、児童の健全育成のために有意義だと思ふそのメディアとして発刊したものである。大方の人のご理解やご協力をいただき、91年10月から4号までをお届けすることができた。コラムには、教育・福祉の分野で造詣のある先

生方にご寄稿をいただいた。さて張り切って5号を出そうという段になって、編集委員たちはチョット待てよと考えた。昔から桃栗三年柿八年と言うではないか。「ぴーちっこ」も数え年三才になったことでもあるし、

「ぴーちっこ」は、今を生きる子どもたちについて皆様と話し合う広場です。

日頃子どもと接する中で、ふと気づいた出来事や悩んでいること、子どもについて普段感じていること、そんな身近な話題を取り上げ、お互い気軽に情報や意見を交換し合えるおつきあいが「ぴーちっこ」のなかで生まれるよう、そしてこのような皆様とのキャッチボールが少しづつでも広がり、ひとりでも多くの皆様に親しんでいただける広報紙にしていきたいと考えております。

どうぞ皆様、ぴーちっこの広場にお集

この辺で発刊の趣旨は尊重しながら、視点をかえてつぼみを開かせ、実を収穫しようではないかということになったようである。コラムをどういう形にもっていくのか定かではないが、6号の新装開店を期待している。

まりください。編集委員一同、心よりお待ちしております。

次回「ぴーちっこ第6号」では、「子どもと自転車」をテーマに考えてまいります。

たくさんのご意見をお寄せ下さい。

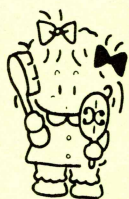
あて先

〒166 杉並区阿佐ヶ谷北3-28-19

聖友学園 ぴーちっこ係

電話 03(3333)1844

FAX 03(3333)1894



ふわ

ふわ

風が少しずつぬるんできて、お日様が少しずつまぶしく感じるようになって来ると、何か新しいことが始まりそうな、何か新しいことが始まりそうな、そんな気がして、知らず知らず胸がときめいてきます。春。子供達一人一人にとって、新しいスタートの時、学園からの巣立ち、進級、進学、入園、色々なドラマがありました。

※ 卒園生の座談会 ※

ここ十年位の間、学園を巣立っていった青年達と座談会を開きました。

みんな頑張っているのでしょう。日曜というのに、仕事の為来られない卒園生も何人か・・・。〇〇君、君の為に大好きだったふ菓子(菓子)を沢山用意して待っていたのに。

そうして集まった卒園生。髪型は今風に決めているけれど、顔を見れば学園にいた頃とちっとも変わらない。それなのに、灰皿を前にしての座談会。職員としては、ちよっと感無量。

みんなの口からは、次々に学園の懐しい昔話、社会に出てからの失敗談や苦労話と話はつきません。卒園し、いざ自分の力で生活を始めてみるとまどいはい多いもの。

「ごはんの炊き方がわからなかった。」
「日もちがわからなくて、一パックのたまごをあわてて2日間で食べきった。」

「自由気ままな生活が、はじめのうちは快

適なもの、日がたつにつれ長かった学園生活を思い出し、淋しい時もある。」
と、こんな声も・・・。

職員にとっては、あたりまえのことも、集団生活の中で体験する機会もないまま一人立ちさせてしまったのかと、あらためて反省させられました。来年も又、集まってお互いの智恵を出し合い、応援しあっていきましょう。



※ お別れ会 ※

無事に学校を卒業して、社会人としての第一歩を踏み出す子供達を祝う為の学園の大きな行事です。

門出を祝うおめでたい席なのにお別れの悲しさが先にたつて、つい涙。

卒園するAちゃん、今だから笑って話せるけど、いろんなことがあったね。

初めて聖友学園に来た時、プツと

ホッペタをふくらませて怖い顔。

とりつくシマもなかったっけ。

きつとすぐく緊張してたんだね。

（でもすぐふてくされる所は、今でも変わらないかな？）

小学校へ行くようになるよ・・・

学校から帰って来ると筆箱の中は毎

日空っぽ。

「使ったものは、元の所へ片付けなさい。」

本当に毎日毎日怒られていたね。

とても片付けのヘタな子でした。

全力投球した高校受験。テストの

結果に一喜一憂しながら、とにも

かくにも頑張ったよね。



そして、十二年の月日がたち、今日旅立ちの時。

答辞の中の、後輩に贈る言葉・・・

「広い意味での勉強をして欲しい。そのためには、色々な人や物に出会い、興味を持ちたり、その人や物の優れた点を見つけ、自分自身なりに吸収して欲しいと思います。私もまだまだ勉強不足だと思えますし、これからの色々な出会いを楽しみにしています。」と言う言葉に成長のあとが、うかがわれました。頑張れ、社会人一年生！

※ キティちゃんの通園カバン ※

Yちゃんは、一年前から、

「今度の春になったら、私も幼稚園。」

お誕生日が過ぎると、

「四才になったから、もうすぐ幼稚園。」

入園を本当に楽しみにしてきました。

三月、Yちゃんは先生と一緒に幼稚園で

使うお道具を買いに行きました。

キティちゃんのお弁当箱、キティちゃん

のコップ、キティちゃんのお箸箱、おつか

い袋にだってキティちゃんのワッペンをつ

けてもらうのに、肝心なキティちゃんの赤

い通園カバンが、どこを探してもなかった

のです。Yちゃんは、がっかりしてトボト

ボと帰って来ました。

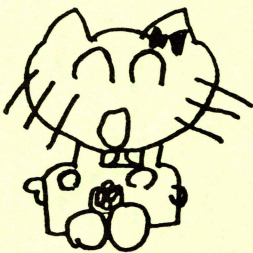
四月、Yちゃんは、ちよっぴり緊張しな

がら、キティちゃんの赤い通園カバンで幼

稚園に通っています。先生が、何軒も何軒

もお店をまわって、やっと見つけてきたの

です。よかったね。元気に二年間通おうね。



こめゆびとまれ

—「バースデーフレンドのおじさんへ」—

聖友学園の子どもたちには、一人一人に「バースデーフレンド」（以下フレンドと略称します。）がいます。フレンドとは、子どもの誕生日にバースデーカードとお祝い金を贈って下さる方のことで、現在四十五名の方に登録していただいております。

この方々には、登録後学園からプロフィール票や写真をお送りし、予め子ども様子の様子を知らせていただきますが、子どもはフレンドのお名前しか判りません。自分のフレンドはどんな方だろうと想像し、毎年カードを楽しみに待っています。

学園での誕生日のお祝いの様子をご紹介しますと、夕食にその子の好物の料理が用意され、同室の子どもたちがその子の似顔絵を描いたり花を飾ったりクラッカーを鳴らすなど、思い思いに工夫を凝らします。子どもはうれしさと照れくささが入り混じった表情で席につき、フレンドからの贈物を渡されます。

心のこもったバースデーカードで、フレンドへの思いをふくらませながら、子どもはお礼の返事を書きます。こうしたフレンドとの交流を通して、子どもたちは思いやりや優しさ、そして感謝の気持ちを育てていきます。フレンドの方が、いつまでも子どもたちの夢の彥星や織姫であって下さることを願っております。

■表紙に掲載のお手紙は、字数等の関係で一部を割愛させていただいております。お許し下さい。

バースデーフレンド

二宮 徳子

この二月、私はバースデーフレンドのM君から三度めのお便りをいただきました。

見知らぬ友への精いっぱいの真心が一言一言にこめられていた昨年の最初のお便り。元氣いっぱいのさし絵入りの今年の年賀状。そして三通めは、忙しさの中で十分誠意を尽くせないままのカードを送ってしまった私への、いたわりと励ましにあふれた手紙でした。幼いM君に見守られ、年齢の差を越えて励まされているのだと思うと、私は心から有難く思い、出会いのよろこび

を味わいました。

一昨年、学園の職員の方からバースデーフレンドのお話があった時、私はためらわずフレンドになることを引き受けました。

それは、一つは私自身が中学生の一時期、親の仕事の都合でひとりだけ親許を離れ、叔母の家族と共に暮らした経験があったからです。この時、私はちょうど思春期にさしかゝる年頃だったこともあり、親離れと自立への不安でいっぱいだったように思いますが、家族以外の人の深い愛情や、暖かい思いやりに接するかけがえのない体験でもありました。

もう一つは、私のこれまでの人生で、学校の友、仕事の仲間、近くの方々、趣味のグループ、その他たくさんの人々との出会いの中で、私は教えられ、助けられてきました。その中で、苦労や喜びを分かち合う有難さを実感しているからだと思います。そして今、M君をはじめ、「ぴーちっこ」の紙面を通して知る学園の皆さんとの出会いも、私にとって大切な出会いです。

M君や学園のぴーちっこの皆さんと私は、年齢も経験も生活もずい分と違うことと思いますが、これからもささやかな喜びや感動を分かち合いながら、友達でいたいなど願っています。

店自慢コーナー

おみせやさん



中央花壇

ぴーちっこ達の門の前の桃の木が今年もきれいに咲きましたね。私共は旧中杉通りの花屋・中央花壇です。

聖友学園の皆様にはいつも御引立いただきありがとうございます。

当店は創業昭和五年でもう六十年以上当地で営業しており阿佐谷駅高架下ダイヤ街店も二十七周年をむかえました。いつも花が豊富で新鮮長もちする、価格も安いと多数のお客様の

ご最頂にあづかり感謝の気持ちでいっぱいです。

喜びの時も悲しい時も花はいつも華やかさをそえ、又心をなごませてくれます。

聖友学園の良い子達も御誕生日の花を買いにきて下さるし、又卒園していった人達もたまに顔をみせてくれると本当に懐しく嬉しく思います。

当店も昨今はスタッフも若者が大勢いますので花キューピット(全国にお花が送れる組織)、又はデパートの売場のいけ込み、色々な発表会の花等連日多忙をきわめております。

お花のことなら何でも御相談に応じますので、今後共よろしく御引立下さいます様お願い致します。

中央花壇

杉並区阿佐谷北4-7-11

電話 3337-6393

学園よりひとこと

楽しい時、悲しい時も花は、私達の生活に、やすらぎをあたえてくれます。いつでも心の灯であって下さい。

学園行事より

聖友サッカー

がんばる!

三月七日、東京サレジオ学園で、少年サッカー大会が開かれました。わが聖友学園チームは、午前中に行われた小学生の部に参加しました。第二土曜を除いた毎週木曜と土曜の午後四時から五時までの一時間、杉九小のグラウンドを借りて、この日のために練習してきたのです。サッカー音痴の職員も一緒に練習をみてきました。その成果を發揮しようとして、当日は普段の日よりも早起きをして試合に臨んだのでした。

一回戦は東京育成園と。五対二で見事に勝利! 次の準決勝、三位決定戦には残念ながら敗れてしまったのですが、最終的には、十チーム中四位、という好成績を収めました。他チームに比べるとち



よっと小つぶではありましたが、その活躍ぶりはなかなかなもの。予想外(?)の賞状と賞品までいただいて、終わってみれば、よくがんばった! というところでしょうか。

Jリーグも開幕し、世は空前のサッカーブーム。子ども達のサッカー熱は強まる一方です。学園でも新チームでの練習がすでに始まっています。そこで、次回は、今回以上の成績を、あわよくばトロフィーを期待したいもの。

がんばれ!

聖友サッカー!!

学園の設備をお貸しします。

地域における児童の健全育成の推進を目的とする会合や催しに、当学園の会議室（15〜20名程度収容）ホール、その他、ヤキソバ、タコ焼、かき氷の機械などをお貸しします。

皆様の寄稿を待っています。

当紙に地域のお店の皆様に参加していただくコーナーを設けております。

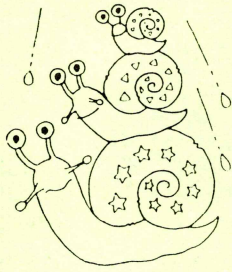
「こんな楽しいお店です」

「当店自慢のこの一品！」

など紹介されてはいかがでしょうか。

次回「ぴーちっこ第6号」のテーマ「子どもと自転車」についてたくさんの皆様のご意見をお待ちしております。

「ぴーちっこ」の内容に関するお問い合わせ先
聖友学園 03(3338)1844



ありがとうございました。

次の皆様よりご寄付を頂きました。厚く御礼申し上げます。

(平成5年1月〜平成5年4月)

(敬称略)

〈寄付金〉

(財)中央競馬社会福祉財団、(株)チャイルド社

〈寄付物品〉

東穀協会、伊勢丹百貨店食品部、共同石油(株)、東京都煎豆落花生商工業協同組合青年部会、全国クリーニング環境衛生同業組合連合会、文化放送クリーンライフみりの箱委員会、木村達夫、全国杉の子会連合会東京地区本部、茨城八千代農業協同組合三菱銀行社会貢献室、(株)ヨックモック、(株)ソニー・クリエイティブプロダクツ管理本部総務部、キリンビール(株)、岩崎元男

〈バスデーフレンド〉

斎藤弘一、速水敬友、二宮徳子、末本昭子、山崎智子、村上喜一、貴志悦子、大丸宣昭、村上みき子、黒岩武士、島田幹男、奥野玲子、武田もと

〈招待〉

(財)日本民生文化協会(ファミリーコ

ンサート)、三菱商事(株)社会環境室(春の自然教室)、武尊ロッジペンション協会(スキー)、(財)報知社会福祉事業団(サーカス)、クリエイティブオフィス・ワンスハート(サッカー観戦)

編集後記

今回のぴーちっこ、カラーがみどりになったのは、お気付きですか？

これから、各号ごとの新鮮さをアピールするため、カラーを変えてみることにしました。

今回は、みどり、学園の桃の木もピンクの花が終わり、緑一色、夏の到来を思わせてくれます。さて次号は何色になるか、楽しみにして下さいね。

ところで、新編集委員でスタートした第5号、慣れない編集と悪戦苦闘、四苦八苦の末、なんとか発刊することが出来ました。

目に留めて下さった皆様のお声が聞けましたらうれしく思います。

ぴーちっこもやっと3才、お力添えの程、よろしくお願い致します。